

vol.15
2011.2

三菱農機だより

MITSUBISHI NOUKIDAYORI



新登場!三菱トラクタ

GO/GX



GO341

貿易自由化交渉が本格化する中であって、農産物の自由化圧力が強まっています。日本農業にとって、早期に外圧に対応できる農業構造へ転換することが求められています。今後、農業改革の取り組みにつき議論が本格化するものと思われます。東京農工大・澁澤先生の「日本のもともと得意とするモノづくりの技術を農業にも徹底して採り入れるべきです」そして「地理・土壌・環境問題研究などの、蓄積された知的所産を今こそ発揮すべきだ」との解説は大変示唆に富んだお話です。日本の農作物は世界中から安全で、良い品質という高い評価を受けています。農産物輸入の圧力を跳ね返す、農業対策に期待したいものです。三菱農機はより良い農業機械の開発を通じて、日本の農業を守るため全力を上げてまいります。

日本農業の未来を拓く 精密農業

東京農工大大学院教授
澁澤栄(しぶさわさかえ)氏



Profile

1953年群馬県生まれ。87年北海道大学農学部助手、90年島根大学農学部助教授、01年東京農工大学教授。農業機械学会会長、農業情報学会正会員などを務める。精密農業の分野では、精密農業アジア会議議長を務め、リアルタイム土壌センサー開発、農産物評価などの研究も進めている。

新しい圃場管理戦略として、精密農業が脚光を浴びています。農作物の生産情報をデータ化、分析し、効率的生産にフィードバック。地域のブランド戦略と結びつけ、農業生産ノウハウを知的財産化。日本農業の維持、活性化を目指すという精密農業に関し、東京農工大の澁澤栄教授にお話いただきました。

Q 今年も米価が下がり、農家はきびしい環境に置かれています。

A 今後離農する方が多くなりますがその方々は、高い農業技術を身につけた熟練者ばかりです。工場などでも団塊の世代の大量退職で技術の継承が問題になっていますが、農業も同じでこのままでは日本の農業は機能不全に陥ってしまいかねません。そうならないために私が提言しているのが精密農業なのです。

Q 精密農業というとGPS (Global Positioning System) を使って圃場の情報を入手するということですね？

A いえ、それは精密農業の一部の技術であり、精密農業とは本来もっと大きな視点を持つ農場管理戦略のことなのです。技術革新型の環境保全農法で、今世

界中で研究されています。具体的に言うと、圃場によって土壌や雑草、病害虫などのバラツキがありますね。このバラツキを記録し、管理することによって地力を維持したり、収量や品質を向上させたり、環境負荷を軽減するのが精密農業なのです。バラツキの情報を得るための手段としてGPSを使用することもあるので、これが精密農業そのものと勘違いされるのです。

Q 土壌や病害虫など圃場の情報は、熟練の農業者ならだれでも持っているではありませんか？

A そうなのです。篤農家と呼ばれるような農業者は、圃場ごとの情報を持っていて、それを活かしてきたのですが、彼らが離農してしまえば、豊富な情報が消失してしまいます。そのため求められているのが精密農業なのです。

作業サイクルで説明すると、まず圃場のデータ、つまり土壌や雑草などのバラツキを記録します。これを圃場マッピング技術と言います。そのデータを解析してバラツキに応じた栽培法を決めますが、これを意志決定支援ツールと呼びます。最後に、収量や品質のバラツキを観測し、実際に作業して制御します。これを可変作業技術と呼んでいます。この3つを精密農業の3大技術と言います。

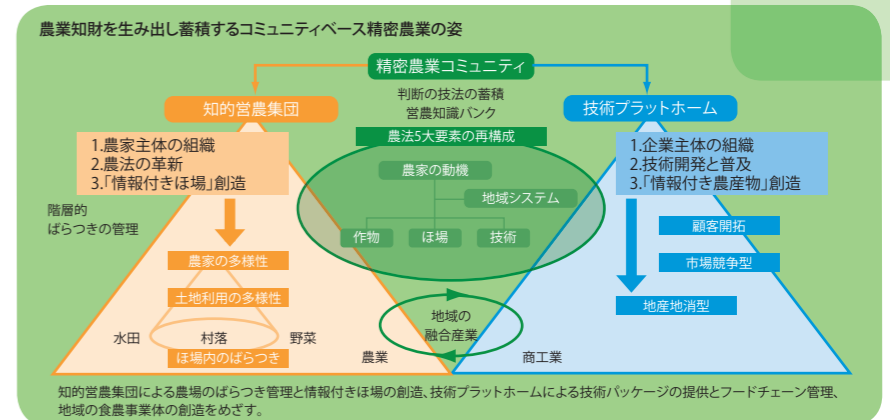
この3大技術を用いると「情報付き圃場」ができ、この圃場からできる作物が「情報付き農産物」です。このシステムを使えば、熟練者でなくとも簡単に情報を得て、その圃場に適した栽培を行うことができます。さらにコスト削減や品質の向上がはかれ、消費者ニーズに対応した市場戦略を練ることもできるのです。

Q 精密農業はアメリカで生まれたというこ

とですが、アメリカの農業と日本の農業は基本的に違うではありませんか？

A 日本では、大消費地に近い所に小規模で多様な生産現場があり、コストよりも売り上げを重視する経営をする農業が主流となっています。このような形態の農業のために、私は「コミュニティベース精密農業」を提案しました。この主体となるのが、知的営農集団です。これはITなどの情報技術を駆使し、農家を組織化したり、自治体などとの連携もはかる、いわば参謀のようなものです。このほかに、「技術プラットフォーム」というのがあります。これは、地域のニーズにあわせて技術開発するもので、具体的には企業がこれに当たります。この技術プラットフォームと知的営農集団が連携して農産物を提供するのです。

知的営農集団と技術プラットフォームのもとには、あらゆるデータ、知識、知恵が集積されます。ここで問題になるのが、この農業知財をだれでも手に入れられるということです。工業製品などでは特許の重要性が浸透していますが、農業分野ではまだまだ遅れています。地域ブランドなども簡単に真似をされています。このような問題を解決するためにも、精密農業で用いる情報が重要となってきます。前述した圃場マッピング技術によって収集された情報があれば、いわば「圃場の指紋」が作れることになります。これができれば、どこの圃場で作ったものかは一目瞭然です。これに関しては、まだ研究段階ですが、特許の問題をクリアするためにも、取り組む



べき課題だと思っています。

Q 先生がかかわっておられる「本庄(埼玉県)トキメキ野菜」も特許に関係しているのですか？

A 本庄精密農法研究会は、日本最初の認定農家組織である「本庄市ニューファーマー21」の役員が中心となって組織されたものです。02年の定例会が開催されたとき、私が精密農法導入のための三つのステップを提案しました。ここで作ったのが「本庄トキメキ野菜」というブランド野菜なのです。ここで実験しているのは、第5世代の精密農業で、世界的にも注目されています。本庄は、もともと品質のよい野菜を作っていたのですが、消費者とのつながりに欠けていました。そこで私が精密農法の導入を提唱したのです。ここでは、生産者がホームページを持ち、毎日栽培日誌を記録します。残留農

薬などの情報については、生産者同士で随時研究会を開き、このときの内容もホームページに記載されます。

生産現場では生産者の顔写真やQRコードを付けた情報タグを野菜につけ、これが流通して店頭並びます。消費者が店頭で野菜についているタグに携帯電話をかざしてQRコードを読み取ると、そのまま本庄の生産者のホームページを見ることができます。ホームページには生産者がどのようにその野菜を作ったかが紹介されていますから、消費者は安心して買うことができます。もちろん、消費者と生産者がそのまま情報交換することもできます。こうして、本庄の野菜生産者はこれまで欠けていた消費者との交流を得ることができたのです。このように、精密農業はコミュニティ全体を変えてしまう可能性を秘めており、未来の農業の新しい形態を提唱するものなのです。

精密農業実施例 本庄精密農法研究会「本庄トキメキ農法」
<http://honyasai.jp/pc/index.shtml>

おこめ美味歳々

門倉有希さん



Profile

門倉有希(かどくらゆき)さん
福島県出身。1994年「雫…カモメ」でデビュー。独特のハスキーな歌声で独自の世界を作り、98年には「ノラ」が大ヒット、多くのファンに支えられて活躍を続けている。2010年、新曲「放されて(ほかされて)」発表。

バランス良い食事を。

私は福島県育ち、子供のころ、辺りは自然に恵まれた農村でした。福島はお米はもちろん、リンゴやナシなど果樹、キュウリやナスなどの新鮮な野菜もたくさん採れるところです。おいしいものをたくさんいただいて、すくすく育ちました。お米や野菜などは福島から送ってもらって食べています。特に好き嫌いはありませんが、歌手という仕事柄、体力維持のため、バランスの良い食事を心がけています。野菜を中心に特に青モノを多く摂るようにしています。お肉よりお魚の方が好き、納豆にご飯も大好きです。毎日の食事って大切ですね。

そういえば、実家の伯父さんが三菱の農業機械を使っています。おいしいお米や野菜をたくさん作っています。昨年の初めには、三菱農機さんの会で歌わせていただきましたし、ご縁がありますね。

近所で評判の歌娘。

芸能界に入ったのは、レコード会社のオーディションを受けることを、熱心に勧めてくれた近所のおばさんがいて、高校2年の時にオーディションを受けたのがきっかけです。自分では自信がありませんでしたが、全国大会までいかせていただいたのですが、結果は案の定落選してしまいました。でも、変わった声のためか、レコード会社のプロデューサーに声をかけて頂き、レッスンに通うようになりました。ある時、作曲家の浜圭介先生に歌を聞いていただく機会がありましたが、何か感じたものがあって、先生が「よし俺が書く」っておっしゃって、出来上がったのがデビュー曲「雫…カモメ」です。小さい頃から歌が大好きで、あちこちで歌ってしまっていて、おばさんにはよく聞いてもらっていたんです。声は小さい頃からこういう低い声でした。声にも特徴があったのかそれで周りで覚えていてくれたと思います。実家に戻ると今もそのおばさんには、よくお会いしますが、私の顔を見ると喜んでくれています。

私自身は明るい性格です。

高校時代には短い期間でしたが野球部のマネージャーでした。甲子園にも応援に行きました。ワイワイガヤガヤ楽しい思い出がたくさんあります。私の歌はちょっと暗い雰囲気のものが多いのですが、私自身はあっけらかんとしています。明るい歌もたくさん歌いたいですね。永く、良い歌をたくさん歌いたいですし、歌手としての理想は「高橋真梨子」さんかな。この声で歌手にならしてもらい、なんとかここまでさせてもらいました。紅白歌合戦にも出させてもらいましたし、これからも大切に歌い続けていきます。ところで、私の故郷、福島の農家は皆さん元気ですよ。農業は食をつくる大切な仕事、全国の農家の皆さんも頑張ってください。そして、私の新曲「放されて」も聴いてくださいね。よろしく。

作物にやさしい土づくりのために——。

圃場での沈み込みを防ぎ、土を踏み固めない三菱ハーフクローラトラクタ

土づくりは農業の原点。作土を深く、念入りに耕し、通気性・透水性のよい膨軟な土に仕立てることが、農作物の安定多収・高品質化につながります。三菱ハーフクローラトラクタは、ホイールトラクタより接地圧が低いため、土の踏み固めを防ぎ、深耕・耕起のしやすい圃場を維持します。



湿田・深田でも優れた走破性・作業性を発揮！

力強さとやさしさを備えた、信頼のハーフクローラ。

- 後輪に接地面積の広い、幅広クローラを採用しているため、従来のホイールトラクタより低い接地圧で湿田でも力強く走破します。
- 湿田・深田でも重作業機をラクラクけん引し、高効率で作業をこなします。
- 幅広のクローラが圃場での沈み込みを防ぎ、土を踏み固めません。



左右のクローラが別々に揺動し、圃場の小さな凹凸に影響されず安定した走行ができます。

後輪のグリップ力が高いため、スリップが少なく、重い作業機もラクラクけん引します。

接地面積が広いので、横滑りが少なく、湿田・深田性にも優れ、作業精度も向上します。

約25km/h(GXK511)の高速移動が可能。プロが求める効率に 대응、高速仕様！

優れた耐久性とスピードでプロの仕事をサポート

耐久性に優れた転輪・アイドラ

転輪・アイドラは耐久性に優れた両持ち支持方式を採用(GXKのみ)。また、シンプルなフレーム構造が、泥溜まりを少なくします。



メンテナンスのしやすい3分割スプロケット

駆動スプロケットは3分割式を採用。整備の際取り外しやすく、とても便利です。また、スプロケットの開口部を広くとっているため、掃除なども容易です。



写真はGXK

さらに、ここも注目！

作業効率を向上させる、スムーズ変速のe-shift。

レバー先端に主変速スイッチを配置し、速度調整はノークラッチ。高速発進スイッチを押しながら高速(Hレンジ)に入ると、より素早く移動ができます。



低速・中速・高速の各8段が自由自在。(GXK)

高精度作業をもっと細かく、簡単に。

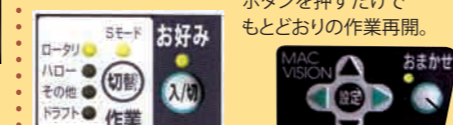
油圧リフトをデジタル制御化。作業ごとに細かい設定ができ、高精度に実現します。また、作業状況がタイムリーに大型液晶パネルに表示されるので、必要な情報が一目でわかります。



深さ設定画面
耕深、傾斜も細かな設定が可能。

「お好み」、「おまかせ」機能で設定・切替がさらに便利に。

「お好み」スイッチを入にすると、自動で機能の設定を記憶し、走行/耕うんの切替時はもちろん、エンジンを再始動した時も再設定の必要はありません。また、移動後に耕うんを始める時、「走行」を「おまかせ」に切替るだけですぐに作業を行えます。



ボタンを押すだけでもとの作業再開。
細かな設定も「お好み」どおり記憶。

事例

魚沼産コシヒカリを作り続けるために三菱ハーフクローラトラクタが強い味方になってくれそうです。

新潟県魚沼市今泉

重野充良さん 武田藤雄さん
五十嵐克彦さん 星野洋一さん
栽培面積 水稲 10ha (コシヒカリ)



重野さん(右)は、五十嵐さん(左)をはじめ、4人でトラクタを共同所有しています。



重野さんたちが導入した三菱ハーフトラクタ GXK510。リース支援事業を利用して購入。

基盤整備された圃場。次のシーズンに備え、しっかりと秋起こしがされています。



「ハーフクローラは予想以上に牽引力があるね」(重野さん)。

ぬかるんで荒れた圃場の秋起こしに三菱ハーフトラクタが活躍

「今年の夏は思いもよらぬ猛暑で、9月上旬まで圃場に水を入れて管理していました。しかも、刈り取り時期には今度は雨が続き、圃場はぬかるんだ状態になる始末。そのため、収穫後の圃場はずいぶん荒れてしまいました」とおっしゃるのは、日本を代表するコメの超有名産地、新潟県魚沼市でコシヒカリを作り続けていらっしゃる重野充良さんです。

重野さんは、近隣農家の仲間と昭和30年代からトラクタを共同所有し、以来、そのスタイルをずっと続けてきました。

「いま共同所有している4人は当初からのメンバー。今年導入した三菱ハーフクローラトラクタで5台目になります」(重野さん)

そのハーフクローラトラクタが期せずして、ぬかるんで荒れた圃場の秋起こしに大活躍することになりました。「まず感心したのは牽引力です。もともとこの辺りは雨が多湿田気味なのですが、ハーフクローラのグリップ力が良く、難なくロータリ作業をこなしてくれました。荒れてでこぼこになった圃場でも走行が安定していましたし、以前のホイールトラクタに比べてスリップも格段に少ないですね。ハーフクローラトラクタの導入は、まさに絶好のタイミングでした」と重野さんはうれしそうに微笑まれました。

魚沼産コシヒカリの生産者として消費者の期待に応えるコメづくりをめざす

重野さんたちの圃場がある地域は、数年前から進められていた基盤整備がようやく今年で終了します。

「やはり、これからもコメづくりを続けていくには、より効率的に作業を進め、省力化を図っていくことが肝心です。基盤整備により作業は随分しやすくなりました。今回、ハーフクローラトラクタを導入するにあたり、馬力をアップして50馬力にしたのも作業効率を上げるためです。以前のトラクタは33馬力だったので、ハーフクローラの利点もあり作業スピードはかなり向上しました」(重野さん)

また、土づくりについても重野さんたちは心を砕いています。たとえば、メンバーの星野さんが酪農もされており、牛糞を堆肥として活用していることもその一つです。「ハーフクローラトラクタは、圃場の土を踏み固めないところもいいですね。地力のある、膨軟な作土に仕立てることがおいしいコメづくりの基本ですから。

魚沼産コシヒカリは、有り難いことにおいしいコメの代名詞となっています。その生産者の1人として、有名産地であることにあぐらをかかず、できる限りの努力を払うこと、それが消費者の期待に応えることだと肝に銘じています」と重野さんは表情を引き締めました。

ユーザー紹介①

宮崎県
都城市横市町

農事生産法人(株)あぐりサポート横市

福留勝徳さん(56歳) 他計13名

口蹄疫の被害を乗り越え チームワークはさらに強固に



経営規模
 水稲
 耕起……………3ha
 代かき……………15ha
 田植え……………20ha
 収穫(コンバイン)…25ha
 牧草
 ロールベラー……………35ha
 サブソイラー……………12ha
 その他
 掘取り(甘藷)・畦塗り…52ha

農業機械
 トラ:GV750×1台
 :GV760×4台
 コン:VY50×2台
 :MC405×1台
 田 :LV8×2台



青くかがやく霧島山と当地の甘藷からつくられる「焼酎霧島」



ずらり勢ぞろいの三菱農業機械



宮崎県
都城市横市町

困難を乗り越え団結力はさらに強く

宮崎県内で発生した口蹄疫で「あぐりサポート横市」のメンバーも大きな被害を被りました。稲作と畑作・園芸・畜産など複合経営が多く、家畜の出荷停止で収入が途絶え、畜舎の消毒にも手間がかかり、牧草や畑作など一連の作業体系が大幅に狂ってしまったのです。

「私も和牛の肥育をやっていますが、今回は大変苦労をしました。4月から4ヶ月の間、感染防止のため、メンバー間の会合や集合ができず、必要事項は電話連絡でした。この地区は殺処分は免れましたが、畜産市場は閉鎖されましたので、出荷ができず、給餌や健康管理に大変気を使いました」と福留社長。秋を過ぎて、口蹄疫騒ぎも漸くおさまり、畜産農家の仕事も元に戻っています。

「今年は猛暑や長雨に悩まされました。稲作では量はともかく品質面が心配です(収穫前)。園芸(メロン)や畑作(焼酎用甘藷・ごぼう)の方も大変苦労しました。農業は自然相手の仕事ですから、いろいろ問題が起きますので一つ一つ困難を乗り越え行くしかありません。今度のことで、帰ってメンバーの団結は強くなりました」と福留社長。

受託面積の拡大で経営安定化

「平成5年頃からの、農地利用組合から機械利用組合へ発展し、平成20年にJAからも出資をうけ、地域の農業作業の担い手としての役割を果たすべく、農事法人化しました。まずは、稲作対応機械の大型化を計りました。部分耕作も含めた受託面積が大幅に拡大してきました。その後、畑作や牧草用機械や施設にも投資を広げました」まずは、順調な滑り出しです。

「皆さん複合経営でから、対応作業機の種類も多く、高額な作業機を単独で保有するのは難しいので 作業機を会社で導入し、時間貸しで、個人にも使ってもらっています。だから、機械の稼働率も高いです」とのこと。

今後の展望を伺うと「農政の行方を良く見定める必要があり、経営の舵取りは大変難しい局面も予想されます。どうしても慎重にならざるを得ません。でも、メンバーは20歳代~50歳代と若く、研究熱心で、それぞれ得意分野もっていますので、機敏な行動力を生かしたいですね」と意欲的です。それぞれ後継者にも恵まれそうで、社長の福留さんを中心にまとまりの良い会社になっています。

三菱の農業機械が社屋前に勢ぞろい、キビキビと行動するメンバーの方々、これからの農業の支える新しい力がみなぎっていました。

ユーザー紹介②

福岡県
朝倉市大庭

手嶋元介さん(62歳)

「めし丸元気つくし研究会」の 副会長。高温耐性品種の 育成に尽力



経営規模
 水田……………20ha
 育苗……………4000箱
 麦……………15ha
 畑作
 大根……………2ha
 にんじん……………2ha

農業機械
 トラ:GV65
 コン:VG585
 田 :LV8/LV6

福岡県朝倉市



筑後川の水をくみ上げる三連水車



収穫を待つ圃場とカントリー

新品種のブランド化に取り組む

このところの「温暖化」は日本の農業にも大きな影響を与えています。お米の品質低下・収量不足も懸念されており、その対策として、各地で高温耐性の品種開発がおこなわれています。福岡県ではJA福岡県連が開発した高温耐性品種「めし丸元気つくし」の普及に努めています。

福岡県の米どころ朝倉市で農業経営する手嶋さん宅ではこの「めし丸元気つくし研究会」の副会長を務め、生産と普及の中心メンバーとなって活躍しています。

「3年間元気つくしを作付しましたが、昨年・一昨年ともそれほど暑さにはなりませんでしたが、でも今年は大変厳しい暑さになりました。耐性品種の真価が問われる年になりました。収穫が楽しみです。」

『めし丸元気つくし』を福岡県の代表品種に育てるため、仲間を募って「研究会」をつくりました。みんなで協力し、トレーサビリティを管理し、育苗・移植・収穫などにも気を配りデータを蓄積しています。

「消費者にもアピールするため、JAふくれんが提供し、地元のテレビ局で『元気つくし』のTVCMを600本放送します。CMには研究会のメンバーが出演しPRします。また、TV局では情報コーナーで大きく取り上げてくれ、収穫の様も取材に来ます。三菱コンバインも大きく映る筈ですよ。と付け加えてくれました。」

「地元福岡のブランド米として、大消費地・福岡市に定着させるという大きな目標を掲げています。地産地消の点からも成功させたいと思っています。各地からその動向に注目が集まっています」と手嶋さんの意気は盛ん。

畑作の経営もしっかり、 一年中大忙しの毎日。

九州の大河・筑後川流域は昔からの肥沃な農業地帯。今

でも現役で働く、三連水車も名所の一つ。手嶋さん宅の圃場はその周辺にあります。

「稲作のほかに、麦や畑作も手掛けており、「大根」と「にんじん」は大規模に作付しています。大半が業務用で使用されるので、安定供給が需要さんから求められています。品質・収量ともに厳しい基準があり、大変気を使います」と手嶋さん。

年間の作業を聞くと「春の麦収穫・耕起・代かき・田植え(その間育苗4000箱)大根収穫(12月~5月)、にんじん収穫(2月)などと、一年を通じて作業が続きます。計画的に取り組んでいます、大忙しの毎日」とのこと。

これからもっと省力化したい作業は畦除草。暑い季節の作業でもあり、きつい仕事の一つです。一層の機械化が望まれるとのこと。

手嶋さん宅では「最近、娘の垂矢さんが次の世代を担う後継者として、やる気を見せている。頼もしいですよ」と若い人達が農業に取り組み始めているという。若い力にみんなの期待が集まっていました。



手嶋さんと「めし丸元気つくし」関係者

「めし丸元気つくし」PRパンフ



野菜用機械化体系紹介

手間いらず スピードアップ 規模拡大 有望作物

加工用ほうれんそうの一貫作業体系をご提案。 手間のかかる栽培体系を一新。

機械化の実現で作業効率を大幅アップ、多収・大量処理を実現しました。
その他の加工用野菜への対応も可能、省力化と低コストに貢献します。

人の健康に欠かせない緑黄野菜の王様と言われる「ほうれんそう」。健康志向のもと需要は着実に伸びています。従来は生食用がほとんどでしたが、ライフスタイルの変化により、飲料用やカット野菜など、加工用ほうれんそうの消費も増加しています。消費の伸びに比べ、生産面では手間のかかる作物として、機械化の要請が強く望まれてきました。特に収穫・調整にかかる作業は手作業に頼る部分が多く、コストの低減も難しい状況でした。

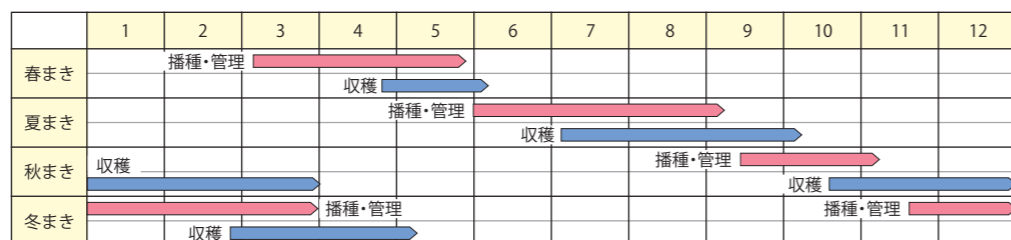
規模拡大やコスト低減、省力化のため、三菱農機では加工用ほうれんそうの一貫作業体系を開発し、推奨いたしております。そのうえ、汎用性の向上を計るため、「あしたば」「大麦若葉」など加工用野菜の生産にも対応しています。

ほうれんそうの出荷推移

| 年 | 出荷量 | 生食用 | 加工向 |
|-----|----------|----------|---------|
| H20 | 238,300t | 222,200t | 15,600t |
| H19 | 241,900 | 239,800 | 14,400 |
| H18 | 239,800 | 239,500 | 15,000 |
| H17 | 239,500 | 231,900 | 15,100 |

※農水省統計より (全国・トン)

栽培ステージ



※関東地域の栽培ステージ



加工用野菜の収穫作業を手刈の10倍能率アップ

加工用野菜収穫機

MNSH-1300 新登場!

全て電動式なので排ガス「0」でハウス内でも快適。大容量バッテリー2個搭載



全て電動式なので排ガス「0」でハウス内でも快適。大容量バッテリー2個搭載

一括処理

刈り取り



茶収穫用の刈刃と同じ刃を使用しているので切れ味、耐久性はバツグンです。

掻き込み



ブラシが回転して、やさしく掻き込みます。毛はナイロン製で高さ調節が可能なので、作物の丈に合わせて調整することで作物を傷つけません。

搬送



刈り取った作物はコンベアベルトで後方へ送られます。

コンテナ集積



コンベアベルトで送られた作物は後方のコンテナに集積されます。コンテナ(70×47×34cm)を2個搭載できます。



- 手刈の十倍以上の作業効率を実現
- 大麦若葉/あしたば等にも対応

適応うね天幅 100cm以下
適応うね高さ 0~18cm
クローラ
クローラトレッド 140cm

作業工程



MDR115YBGS
ドリームロータリ



表層耕耘ロータリ・MMR68WR
耕うん・播種床作り機



HS-802
手押し式播種機



農業者戸別所得補償制度

(2011年度 農水関連予算概算要求資料より)

体質改善・規模拡大・自給率向上へ

品質加算・規模拡大加算 などが加わった、 「農業者戸別所得補償制度」 を大いに活用しよう

急速な国際化の中で、我が国の農業を守っていくにはどうしたら良いのか。政府が策定した「新成長戦略」では、食糧自給率50%に向けて、「戸別所得補償制度、農林漁業の6次産業化、食の安全の確立」の3本柱で、2020年度までに農山漁村に6兆円規模の新産業を創出する基本戦略が打ち出されています。その3本柱の一つである「戸別所得補償制度」が来年度より本格導入されます。今が方針転換や規模拡大の絶好のチャンスと捉え、この制度をおおいに活用し農業経営改善を計りたいものです。三菱農機でも皆様の営農をバックアップしていきます。

農業者戸別所得補償制度とは

食料自給率目標を前提に策定された「生産数量目標」に即した生産を行った販売農業者(集落営農を含む)に対して、生産に要する費用(全国平均)と販売価格(全国平均)との差額を基本とする交付金を直接農家に交付するものです。これにより、農業経営の安定と国内生産力の確保を図るとともに、戦略作物への作付転換を促し、食料自給率の向上と農業の多面的機能の維持を目指します。食料自給率向上のため欠かせない作物の作付面積を平成27年度で24万ha拡大が目標に掲げられています。予算総額は約8,003億円。内訳をみると米・畑作物所得対象4,052億円・水田活用対象2,284億円・米価変動補てん1,391億円・推進事業費116億となっています。



4 加算支払 (150億円)

農地利用集積円滑化団体を通じて、面的集積(連担化)がなされた農地に利用権を設定して経営規模の拡大をした場合や、畑の耕作放棄地に麦、大豆、なたねを作付けした場合、畑地輪作での休閑緑肥の導入をした場合に加算金を直接交付。



1 米に対する助成

需給調整に参加して米を生産する農業者に対して、「恒常的なコスト割れ相当分」と、「その年の米価の下落分」を直接支払する交付金です。
【米の所得補償交付金】(1,929億円) **【米価変動補てん交付金】**(1,391億円(24年度予算計上))
 1.5万円/10a **【米価変動補てん】** 当年産の販売価格が標準的な販売価格を下回った場合、その差額を補てん

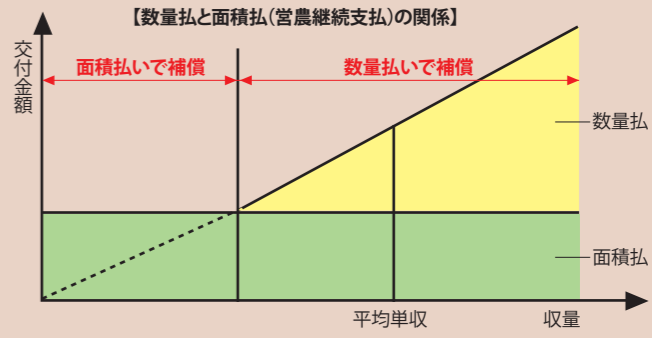
2 水田活用の所得補償交付金 (2,284億円)

水田転作での麦、大豆、米粉用米、飼料用米などを生産する農業者に対して、「主食用米並の所得確保相当分」を直接支払する交付金です。
【戦略作物】 麦、大豆、飼料作物 3.5万円/10a
 米粉用・飼料用米、発酵粗飼料用稲 8.0万円/10a
 そば、なたね、加工用米 2.0万円/10a
【二毛作助成】1.5万円/10a
【耕畜連携助成】1.3万円/10a
【産地資金】総額481億円
 麦・大豆などの戦略作物の生産性向上や地域特産物の振興などの取組を支援

3 畑作物の所得補償交付金 (2,123億円)【水田・畑地共通】

畑作物(麦、大豆、てん菜(砂糖大根)、でん粉用じゃがいも)を生産する農業者に対して、「恒常的なコスト割れ相当分」を直接支払する交付金です。
 交付金は、農地を農地として保全するために必要最低限の費用相当額は作付面積に応じて交付しますが、生産意欲の向上につながるように収量に応じて支払うことを基本とします。

| 対象作物 | 数量払い交付単価 | 面積払い交付単価 |
|-----------|-----------------|--------------|
| 小麦 | 水田 6,360円/60kg | 畑地 2.0万円/10a |
| 大豆 | 水田 11,310円/60kg | 畑地 2.0万円/10a |
| てん菜 | 6,410円/t | 2.0万円/10a |
| でん粉用じゃがいも | 11,600円/t | 2.0万円/10a |
| なたね | 8,470円/60kg | 2.0万円/10a |
| そば | 15,200円/45kg | 2.0万円/10a |



※交付金の支払いは、面積払を先に支払い、その後、対象作物の販売数量が明らかになった段階で数量払の額を確定し、先に支払われた面積払の金額を差し引いた額を追加で支払う仕組み。

【規模拡大加算】 農地利用集積円滑化団体を通じて、面的集積(連担化)がなされた農地に利用権を設定して経営規模の拡大をした場合に、2万円/10aを交付
【品質加算】 畑作物について数量払の交付単価を品質に応じて増減
【再生利用加算】 耕作放棄地などに麦や大豆、そば、なたねを作付けた場合に一定額(2~3万円/10a)を5年間加算
【緑肥輪作加算】 地力の維持・向上につながる作物を、畑地で栽培してすき込む場合(休閑緑肥)に1万円/10aを交付

新商品紹介

三菱トラクタ 新GO/GX シリーズ

新装備満載し、
新世代トラクタとして新登場。

より使いやすく快適に
ニューカラーリングの新デザイン
簡単に高精度の作業を実現

農業の基本は栽培作物に対応する確かな圃場づくり。作物ごとに耕起・耕うん、土づくり、整地、そして適正な圃場管理が必要です。トラクタの果たす役割はますます重くなってきました。これからのトラクタに求められる機能は、強力なパワーに加えて、高効率で精度の高い仕事をこなすことと使いやすさ、快適性の良いトラクタです。三菱農機では新時代にふさわしいトラクタとして、あらゆる点を再検証し、求められる機能を追求し、新GO/GXシリーズを開発いたしました。

三菱トラクタ GO シリーズ

- 26ps GO261
- 28ps GO281
- 30ps GO301/GOK301
- 32ps GO321
- 34ps GO341/GOK341

(GOKはハーフクロラタイプ)



三菱トラクタ GX シリーズ

- 37ps GX371
- 40ps GX401/GXK401
- 46ps GX461
- 51ps GX511/GXK511

(GXKはハーフクロラタイプ)



新デザイン

エンジンルームの冷却効果を発揮するサイドグリル。
赤を基調にパワフル感を強調しました。

e-macで簡単に高精度作業を実現

- 油圧制御を電子化。簡単に確実な作業が可能です。
- 作業状況をタイムリーに表示するMAC VISION 採用でさらに見やすく、安全作業に貢献します。(BM仕様除く)
- 傾斜耕深制御をデジタル化。MAC VISION 表示を見ながら細やかな設定が可能。
- 「おまかせ」「お好み」機能も便利です。

簡単操作のe-shift

- 新形状「主変速スイッチ」の採用により、スムーズな変速ができ、操作も簡単で疲労軽減できます。

情報コーナー

直売所が元気です

地産地消の実現に向けて農産物の直売所が繁盛しているという。規模の大小はあるものの、全国約13000か所・売上高約1588億円(2005年)にもおよぶ。経営形態は様々で、単に新鮮野菜の販売から、幅広い生活用品を扱う所まであります。農作物は多くは新鮮食品。消費者になるべく早く食べてもらうことが、本来の姿です。生産者が消費者と直に接し、生産物へのニーズをつかみ取ることは、自身の生産物の付加価値を高めるのによい機会と思われます。基本は安全で、新鮮なもの、おいしいものを安く供給すること。身近に直売所が増える事期待します。



JA南彩菖蒲



JA北つくば

読者プレゼント

ご愛読
ありがとうございます。

歌手「門倉有希」さんの色紙と「ソーラーLEDランタン」を抽選で3名様にプレゼント。はがきで下記へどうぞ。

ソーラーLEDランタン



応募締め切り 2011年3月末
応募先 〒141-0031東京都品川区西五反田1-5-1
三菱農機営業本部「三菱農機だより編集室」

前号の当選者は下記の通りです。おめでとうございます

福島県福島市 梅津幹雄様
北海道伊達市 山内恵子様
愛媛県西条市 明比和広様



三菱農機株式会社

本社 鳥根県八束郡東出雲町大字揖屋町667-1 ☎0852(52)2111
営業本部 東京都品川区西五反田1-5-1 五反田野村證券ビル ☎03(5759)8060

東日本三菱農機販売(株) 埼玉県久喜市桜田2-133-4 ☎0480(58)9524

北海道支社 ☎0123(22)1234 関東甲信越支社 ☎0480(58)9521
東北支社 ☎022(364)1188 東海支社 ☎052(419)6721

西日本三菱農機販売(株) 岡山県瀬戸内市邑久町豆田161-1 ☎0869(24)0805

北陸支社 ☎0776(27)3078 九州支社 ☎0942(84)1888
西日本支社 ☎0869(24)0820